

平成 21 年度研修員 黒岩 揺光さんの声

プロフィール

大学院では、タイのミャンマー難民の民族意識について調査しました。その後、毎日新聞社で3年半働きました。現在は、米国 NGO「International Lifeline Fund」のケニア事務所のプログラムマネージャーとして、海外実務研修をしたケニアのダダーブ難民キャンプで、環境にやさしい七厘を製造し、難民に配布しています。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

7人兄弟の一番下なのですが、なぜか上の兄弟よりも成績が悪く、そのコンプレックスから、中学時代から競馬などの賭博好きな非行少年でした。20歳で旧ユーゴスラビアを放浪した時に、初めて難民に出会い、人生が変わりました。「なぜ、自分はあるな、小さいことによくよしていたのだろうか？」と、難民問題に関心を持つようになりました。難民問題を報道したいと新聞記者になりましたが、傍観者としてではなく、直接、現場で長期的に活動することでしか見えないものがあると思い、この事業に応募しました。

2. 国内研修の感想は？

一番印象に残っているのは、紛争後のシエラレオネの復興について考えるワークショップでした。私たちが、海外に逃れたシエラレオネ人が100万人以上に上るデータを見つけ、講師に、事態の悲惨さを示したのですが、逆に、その講師は、「この人たちの能力を復興にいかせるのでは？」と助言してくれました。それは、私にとってはまさに逆転の発想で、「難民=助けられる人」というイメージを覆すものでした。海外に住むシエラレオネ人の中には医者や教授、弁護士など、祖国の同胞たちに共有できる知識や経験があり、それらを活かさない手はないと、彼らが祖国へ一時帰国する際に、研修などを催す企画書を書きました。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

ケニアのソマリアとの国境沿いにあるダダーブ難民キャンプは、約46万人（2011年11月現在）の難民が暮らす、世界最大の難民キャンプです。私は、そのキャンプを運営する国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の若者支援担当をしていました。

キャンプでは、教育や雇用の機会が限られ、宙ぶらりん状態に陥る若者への支援が大きな課題でした。そういった若者たちの社会参加を促すため、スピーチコンテスト、ユースフ



【音楽コンテストで優勝者を発表する黒岩研修員】

フェスティバルなどを、キャンプ内にある青年組織の難民リーダーたちと一緒に企画しました。20年前に設立されたキャンプには、高等学校を終え、母国語のソマリア語の他に、英語、スワヒリ語、アラビア語を使いこなし、NGOで働く優秀な若者がいることに驚かされました。

また、これからの若者への支援のあり方を提言するため、若者の実態調査もやりました。18-35歳までの難民1300人にアンケートを配り、教育や雇用の実態を調べました。結果は驚くべきものでした。2割が高等学校を卒業している一方、2割は文字の読み書きすらできない。そして、「NGOや国連の訓練や研修を受けたことがあるか？」という問いに、高等学校卒業者の9割が「Yes」と答えたのに対し、文字の読み書きができない人に限れば、たったの1割でした。私たちが若者に向けて行ってきた支援が、一番支援を必要としていない、エリート層の若者に集中していたということがわかり、社会的弱者に支援が届くシステムの確立を求める提言書を作り、支援会議で発表しました。

4. 海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは？

青年組織リーダーたちとは、色々な面で対立がありました。一番大きかったのは、彼らは何をするにも、国連や援助団体から支援を受けるのが当たり前だと思っているのに対し、私は、彼ら自身の手で、できることはたくさんあると考える点でした。「ユースフェスティバル」を提案した時も、彼らは乗り気でしたが、私が、「予算は自分たちから出して」と言うと、一気に対立モードになりました。「これまではいつも出してくれたじゃないか？」と言うのです。私は「あなたたちは自分たちだけでできることがたくさんある。ソマリアに平和が訪れた時、あなたたちがリーダーとなって国の復興を担わなければならないのに、いつまでも支援に頼っていたら、その役割を担うことはできません」と伝えました。

話し合いを繰り返していくうち、私の気持ちに同調してくれるリーダーたちが何人か出てきました。「じゃあ、ボランティアで参加してくれる若者メンバーを集めれば、予算を最低限に抑えることができる」と言い出し、歌、劇、踊りなどをボランティアで披露してくれるグループを探し始めました。

そして、企画書を自分たちで作成し、援助団体が集まる会場で「私たちは、20年間、あなたたちの支援に頼ってきましたが、これからはできるだけ自分たちの足でたてるようがんばっていきたい」と発表し、拍手喝采を浴びたのです。

キャンプでは、国連やNGOが主催する様々なイベントがありますが、ユースフェスティバルは1000人以上の若者が集まり、どのイベントよりも集客力がありました。



【ユースフェスティバルでスピーチをする黒岩研修員】

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

現在の仕事を後一年は続けて、その後は、天に任せるつもりです。妻がケニアの国連機関で勤務し、次の赴任先がどこになるのかにもよりますね。ただ、一つわかっているのは、ジャーナリストとしての肩書きはこれからも背負っていくつもりで、どこで何をやっていようが、そこでの体験を綴る作業は続けるつもりです。

6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

場所を問わず、率先して色々な人と友達になってください。自分が苦手だな、と思う人とは特に。平和構築は、多種多様な職種・現場がありますが、誰しも通らなければならない難関は、異なる文化の人と信頼関係を作ることだと思います。どんなに素晴らしい知識・経験があったとしても、同僚や受益者と信頼関係を作れなければ、その知識・経験を活用することは難しいです。そして、信頼関係構築というのは、その人の仕事の能力とは関係のない部分、ユーモア、思いやり 謙虚さ、などなどが大きく作用します。

平成 24 年 2 月

平成 21 年度研修員
黒岩 揺光